



◎「日本記念日協会」という組織をご存じでしょうか？ 日付にまつわる面白い記事を読むことができます。今日11月11日は、1年の内で一番記念日の多い日として認定されているそうです。右の図は、その記念日の数々を紹介しているものです。

◎有名なのは「鮭の日」「ポッキーの日」「チンアナゴの日」あたりでしょうか。ほかにいくつ知っていますか？

◎「8月8日」「10月10日」も記念日の多い日だそうです。調べてみるのも面白いですね。

◎あなたの誕生日は、どんな記念日になっていますか？

◎「11月5日」は『津波防災の日』。2011年6月に法律で定められました。国連でも『世界津波の日』と定めたそうです。11月12日は「小中合同避難訓練」実施日です。その様子は次号でお伝えします。



防災講演会(11月8日)

「仲間の命を救うために」

講師：学園 PTA 会長 芳賀 新 様

11月8日(火)、防災週間のプログラムの一環として「防災講演会」を開催しました。講師には学園 PTA 会長の芳賀 新様を招聘し、映像や画像を交えながら東日本大震災当時の様子やそのときの吉里吉里の人々の動き、「命を守る」とはどういうことなのか等をお話いただきました。

当時はまだ幼かった中学生達ですから、明確な記憶はほとんど残っていない様子でした。そこで、芳賀様の講話を聞いて、初めて知ったことや改めて感じさせられることがたくさんあったようです。

「守られる側から手を差し伸べて救う側へ」「必ず再びやってくる災害に常に備えを」「まず生きること。生きていればどんなことでもできるから」「吉里吉里の人たちの覚悟を知ってほしい」

たくさんの心に残るメッセージをいただきました。生徒たちは自分事として捉え、自分の言葉でこれからの生き方について振り返ってくれました。未来を生きていく私たちにとって心に残る講演会となりました。

今日の講演を聞いて、初めのうちはとても怖くて心が痛くなったけど、聞いているうちにどんどん前向きな気持ちになって、もし災害が起きたら自分はこうしようと思えるようになりました。また、当時の吉里吉里でレポートを書いた話や米を配った話などを知って、やっぱり吉里吉里はすごい地域だなと思いました。いつまでも被災者としてではなく、支援者になって町の復興のために行動しなくてはいけないと自分の意識が変わりました。そして、災害を防ぐことはできないから、できる限りの備えをして、まずは自分の命が助かる行動をするということが最終的に仲間の命を救うことになるんだと感じました。

経験上での判断をするのではなく、まずは逃げる、そしてそばの逃げない人の手をつかんで逃げようと思います。今日の講演で学んだことを頭の中に入れて生活します。(9年女子)



快挙!! おめでとう!!

令和4年度全国防火防災作文コンクール

最優秀賞 受賞 9年 東谷 柚月さん



「祖父の手」

私の祖父の手は、黒くて大きくてゴツゴツしています。祖父は、孫の私をととても可愛がってくれて、私が小さい時には、その大きな手で何度も頭をなでてくれました。

祖父の仕事は養殖業です。学校を卒業してから五十年以上、地元の海で、ワカメの養殖をしています。体格はそれほど大きくはありませんが、疲れ知らずの「海の男」といった感じです。

そんな祖父を訪ねて、来客も多いです。誰に対しても優しく接する祖父なので、祖父の周りにはいつも笑顔でいっぱいです。

私の学校では、「ふるさと科」という授業があります。その授業の中で、防災について学習した時に、ある映像を全校生徒で観ました。それは、あの東日本大震災の時の地域の様子を記録したものでした。町の大部分が津波に流され、甚大な被害を受けましたが、その映像には、当時必死になって避難所を運営し、助け合う人たちの姿が映っていました。そしてその中心にいたのが、私の祖父だったのです。あの優しい祖父が、険しい表情で、みんなに指示を出し、毛布や食料の配布、復旧への話し合いをしている姿に、私は素直に感動し、またそんな祖父のことを誇らしく思いました。あの黒くてゴツゴツした手が、たくさんの瓦礫を運んでいました。祖父は、消防団の一員として、また地域のリーダーとして、懸命になって取り組んでいたのです。

私は、この映像を観てから自分の「防災に対する意識」が更に高まったことを自覚しました。それは、単に祖父の知らなかった一面を知ったからだけではなく、祖父を中心に、みんなが一つになって頑張ろうとする姿に心を強く打たれたからでした。

地域を守る防災活動は、みんなで助け合うこと、協力し合うことがなければ成立しないことを私は学びました。

震災から十年以上が経ち、あの映像の険しい祖父の顔は、ふだんの生活の中ではもう見ることはありませんが、祖父の仲間たちと語り合う笑顔には、この町の「地域としての力」を、お互いに認め合う信頼関係のような安心感が根底にはあるとわかりました。

祖父は、高齢になり、今では消防団員としての活動はしていませんが、私の父がそれを引き継いでいます。父の世代の人たちが、祖父の世代の人たちの意思を受け継いで、この地域の防災のために頑張っています。

今日も、私の祖父の周りには、たくさんの地域の人たちの笑顔がいっぱいです。

黒くて大きなゴツゴツした手は、今日もたくさんの美味しいワカメを育てています。

この作品は、生活協同組合全日本消防人共済会が主催する作文コンクールで、各都道府県代表作品 46 点の中から厳正な審査を経て最優秀賞に選ばれました。表彰式は、12月26日（月）東京都で開催されます。吉里吉里の誇りです。本当におめでとう!!

こちら也大快挙!!

令和4年度秋の褒章(内閣府) 『緑綬褒章』受賞

吉里吉里地区教育振興運動推進協議会(大森勝美会長)

【社会奉仕活動功績／環境奉仕活動】に対して

続いて吉里吉里地区の大快挙です。吉里吉里海岸清掃や様々な地域活動をはじめとする、長年の地道な取組が評価され、見事内閣府より授与されました。吉里吉里地区全員の喜びです。心から拍手喝采!!